

令和6年度 多摩市立西落合小学校 学校評価書

学校教育目標	
憲法・教育基本法の精神を尊重し、自主性と創造性に富み、平和的な国家及び社会の形成者として、人間性豊かで、思いやりのある、心身共に健康な児童の育成を目指し、以下の目標を設定する。 ◎考える子（社会適応力） 自ら学ぶ意欲をもち、時代の変化や社会の要請に対応できる力を育てる。 ○助け合う子（人間形成力） 生命尊重を基盤として、互いの人格を尊重し合い、豊かな人間性を育てる。 ○元気な子（行動実践力） 自らすすんで、健康の保持・増進及び体力の向上を図る能力と態度を育てる。	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
○共に生き、共に学び、一人一人が輝く学校 ○毎日、笑って、楽しく、幸せになれる学校	
目指す子供像	目指す教師像
○意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる子ども ○しっかり話を聴く、最後まで聴く、規律正しく整然とした態度で学習する子ども	○授業力・指導力を向上させ、安定した学年・学級経営を営む。 ○心ひとつに、「率先垂範」「凡事徹底」「知覚動考」で日常の指導にあたる。

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

（Ⅰ）確かな学力の育成（学校教育目標『考える子』本年度の重点）

重点目標	○各学年で習得すべき基礎的・基本的な事項の確実な定着を図る。 ○自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力を育成する。			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
授業のねらいに即して「何ができるようになったか」等の振り返りを通して、主体的に学ぶ態度を育成する。 ＜90%＞	4	ねらいの明確化、めあての明示、振り返りの工夫により、保護者へのアンケートで92.2%の肯定的評価を得た。今後も継続して分かる授業の実践に努めていく。	A	・学力向上も大事だが、小学校で授業規律と学ぶ楽しさをしっかりと身に付けてほしい。 ・振り返りはとても大事なことだと思う。これからも継続してほしい。
児童一人1台のタブレット端末等を活用し、日常的にタブレット端末を使うことにより、情報活用能力の育成を図る。 ＜90%＞	4	あらゆる授業場面でタブレット端末を活用し、基礎学力に関して91.2%の肯定的評価を得た。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を今後も継続していく。	A	・タブレット端末を活用し、児童一人ひとりに合った学習ができていた。 ・端末が授業ツールとして定着しており、効果的に活用し、授業の効率化ができている。
SDGsを踏まえたESDの充実及び見直しを図り、主体的に課題を追求する等の授業改善に取り組む。 ＜90%＞	3	課題解決学習での話し合いを重視したが、発表に関する評価が児童・保護者共に68.0%であった。次年度、話し合いや意見発表の向上に積極的に取り組んでいく。	A	・タブレット端末の管理範囲について、明確に児童へ共有していくのも重要かと思う。 ・学校が全力で行っている取組を続けることで将来の教育や学びが変わってくる。
評価のまとめ	授業改善の意識を個人だけでなく、組織で高めるために、全員年3回以上の授業公開（教員向け）を行った。ご指摘にもあったように、今後も「めあて」「振り返り」「授業規律」「学習意欲」「授業の効率化」「タブレット端末」「個別最適」をキーワードにして、学びの変化に対応するために組織的に授業改善をすすめていきたい。学校公開（地域・保護者向け）等で、学校運営協議会委員に授業観察をしていただき、改善状況をご確認いただきたい。また、児童に対しても、タブレット端末の使用の約束や注意点、効果的な使い方などを随時指導し、共有していきたい。			

（Ⅱ）豊かな心の育成（学校教育目標『助け合う子』）

重点目標	○温かい心と互いを思い合う心、強い心や責任感を育てる。 ○自他の生命を大切にする態度を養う。			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
ウェルビーイングの実現に向けて、自分の大切さと他の人の大切さを認め、人のために行動できる豊かな人間性を養う。 ＜90%＞	4	道徳通信等により道徳教育に力を入れることで、「思いやりや優しさをもって他者と関わっている」の項目で95.6%の評価を得た。今後も継続していく。	A	・今後も不登校児童の解消に努め、規範意識と道徳的な行動を身に付けさせてほしい。 ・職員で問題点の共有をし、児童に対して、きめ細かい指導ができている。
学級の安定化を促進し、確かな児童理解に基づき児童にとって「安心できる学級づくり」の推進を図る。 ＜90%＞	4	保護者と連携した学級経営で「相談できる人がいる」（児童91.2%）「自己肯定感を高めている」（保護者93.9%）の評価を得た。今後も継続していく。	A	・いじめの取組は見えにくいのが、安心して通学していることで肯定的に判断している。 ・優しい子が多くいる。言葉遣いが気になる。 ・保護者と学校の連携が取れている。
誰一人取り残さない教育の実現に向け、「いじめを生まない、許さない」を基本とし、いじめのない学校づくりを推進する。 ＜90%＞	4	いじめの疑いの時点で、組織で共通理解を図ることで、いじめに関する項目で保護者94.5%、児童92.0%の肯定的評価を得た。今後も継続していく。	A	・児童が積極的に発言し、他者の意見にも耳を傾け、互いを尊重している姿があった。 ・活き活きとした教員が多い。児童と一緒に教員も楽しんで学校生活を運営してほしい。
評価のまとめ	いじめの取組が見えてこないのは、学校としての周知不足を感じる。特に「いじめの未然防止の取組」を今後周知していきたい。言葉遣いがきっかけで、トラブルやいじめにつながる場合もある。言葉遣いとともに「規範意識」「道徳的な行動」が身に付けられるようにしていきたい。生活指導上の課題についても、今後も教職員、家庭、地域で共通理解し、連携を深めていく。			

（Ⅲ）健やかな体の育成（学校教育目標『元気な子』）

重点目標	○たくましく生きるための「健康・安全」や「体力の向上」を図る。 ○自らの目標をもって自己を肯定し、自ら最善を尽くす意欲と態度を育む。			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
「学校2020レガシー」の取組の継続と充実を図り、「社会貢献」の心を醸成することを目指す。 ＜90%＞	4	社会貢献につながるキャリア教育（目標設定・自己評価）により、95.6%の児童が係等の仕事にしっかり取り組んでいる。今後も継続していく。	A	・今後も運動の楽しさやできる喜びを味わわせ、体力の向上に努めてほしい。 ・身近に潜む危険を適切に指導し、児童の安全に対する意識を高めることができていた。
基礎体力の向上を図り、自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。 ＜90%＞	3	ロング遊びや体力づくり等による体を動かす時間の確保で、84.5%の児童がすすんで運動を行った。意欲向上のために内容改善を図る。	A	・長縄大会のために教員が児童と練習していた。目標があると運動する機会が増える。 ・運動が苦手な児童への配慮を願いたい。 ・数値の明記で、評価の根拠を理解した。
健康や安全に関する意識を高め、児童自らが判断し、命を守る意識をもたせる等、安全指導・健全育成に万全を期す。 ＜90%＞	4	安全指導や避難訓練等により、「自分の身を守る力が付いている」で90.3%の評価を得た。今後も継続し、命を守る指導の充実を図る。	A	・なわとび週間等では、子どもたちも意欲が向上した。体力づくり週間の継続を願う。 ・児童館における避難訓練においても、迅速な行動・避難ができている子どもが多い。
評価のまとめ	体力向上については、今後も継続して取り組んでいくが、学校運営協議会委員にご指摘いただいた通り、より意欲を向上させるためにも「運動の楽しさ」「できる喜び」「苦手な児童への配慮」「目標設定」をもとに改善を図っていきたい。家庭・地域でも迅速な避難行動がとれるよう、避難訓練等の講話で学校外でのことにも、今後も積極的に触れていきたい。			

(4) 家庭や地域との連携				
重点目標	○教師と保護者が共に育み（共育）、力を合わせて育むこと（協育）で、子どもを取り巻く社会全体が響き合い育むこと（響育）ができるようにする。 ○学校と家庭、地域全体で子どもへの思いが調和できるようにする。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学校の特色を見つめ直し、教育活動に生かすことで、学校や地域への誇りをもち、子どもたちが自信をもって生きていけるようにしていく。	4	学運協での児童（代表委員）の発表や学校側の報告により、子どもに関する具体的な内容での充実した意見交換ができた。今後も継続していく。	A	・学運協での代表発表、諸行事、登下校、挨拶等での児童の明るい姿に感心する。 ・地域行事に児童や様々な年齢層の大人、教員の参画機会が多くあり、満足度も高い。
「コミュニティ・スクール」として、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを推進し、人との関わりを大切にした活動を推進していく。	4	学運協と共に学校づくりを推進することで、学校と地域の連携に関する肯定的評価 93.2%、適切な情報提供 93.7%を得た。今後も継続していく。	A	・検定など学習を軸にしたつながりも良い。 ・就学前から学校を通して、地域とのつながりを体験でき、地域の主催により、保護者にも地域の一員としての自覚が芽生えている。
地域連携コーディネーターを窓口として、地域支援者の協力を得て、学習支援活動を推進し、児童の学習環境の改善を図る。	4	地域未来塾や学習支援、学校応援団主催の漢検・算検・英検の実施により、子どもたちの学習意欲の喚起・向上が図れた。今後も継続していく。	A	・大学も含め、地域人材を活用し、「子どものための環境」を作っているのは素晴らしい。 ・大人目線での見方だけではなく、子どもの意見を取り入れるような活動を期待したい。
評価のまとめ	本校の特色は「地域との連携」である。学運協を中心とし、学校応援団、青少協、学童、子ども園、中学校、児童館、大学等の協力を得ながら、充実した教育活動を実施することができた。また、地域行事でも、学校として積極的に関わり、連携することができた。今後は、各取組の中で、児童の意見が反映される活動がより推進されるよう、各団体との連携・協力をさらに図りたい。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

○学校の特色である「地域との連携」を軸に、コミュニティ・スクールとして、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりをこれからも推進していく。学校運営協議会と学校保健委員会を兼ねて開催していたが、各会の趣旨がより一層反映されるよう、次年度より分けて実施する。学校運営協議会では熟議の時間を増やし、学校保健委員会では保護者の参加を推進し、健康教育を家庭に啓蒙できるようにする。 ○ 学校教育目標「考える子」「助け合う子」「元気な子」のうち、重点目標は継続して「考える子」とする。学ぶ意欲を大切にしながら、自己の学習状況を捉え、見通しをもって学習に取り組む児童を育成していく。年間を通して、組織として授業改善を図る機会を設定する。 ○アンケート調査により、話合いや意見発表について課題が見られたことから、次年度の校内研究のテーマを「考えを伝え合う力の向上～聞く・話す・書くをつなげる言語活動～」（仮題）とし、重点目標「考える子」の育成に向けて、校内研究の取組に力を入れる。 ○いじめ・不登校等の生活指導上の諸課題に対する組織的な対応の徹底と充実を図るためにも、日々の教職員の児童への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話、個と集団への働きかけに努める。特に、指摘のあった児童及び教職員の言葉遣いについても改善を図っていく。
--

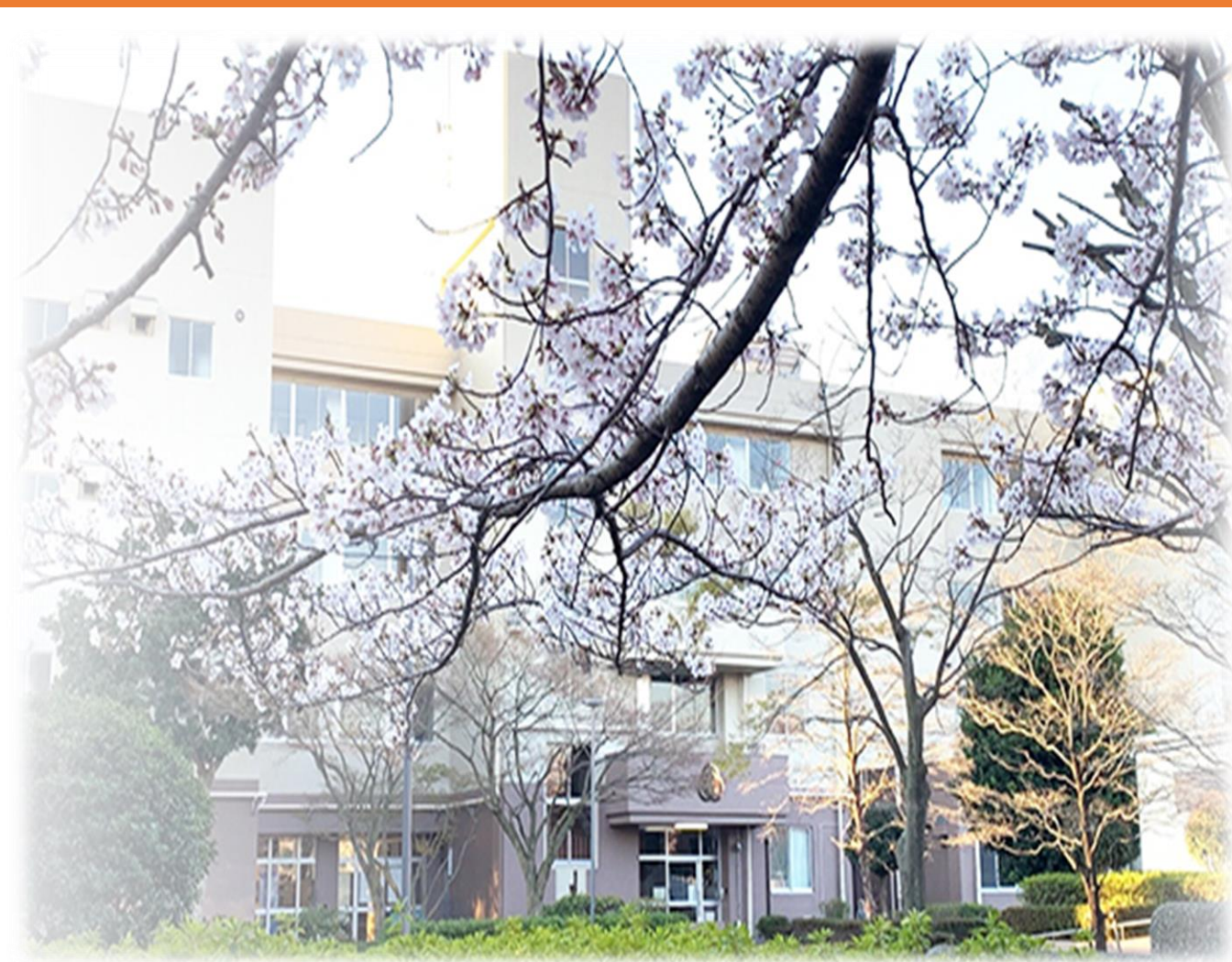
以上のとおり報告いたします。

令和7年3月1日

多摩市立西落合小学校 校長 久保 明彦

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立西落合小学校